

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 1 月 21 日作成)

小委員会名	雪荷重小委員会	主 査 名：中島 肇 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)	委員長名：塩原 等 主 査 名：高橋 徹
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建築物の設計用雪荷重の推定方法に関して、さらに精度と信頼性の高い手法を確立することを目的とする。また、建築設計時に考慮すべき雪問題や対雪設計法について情報収集・知識の体系化を図り、講習会などを通して社会に広める。</p> <p>初年度：少雪地域の大雪被害、雪荷重評価、着雪・落雪に関する対雪設計資料の取りまとめとそのシンポジウムの開催</p> <p>2 年度：より精度の高い雪荷重評価方法の検討、対雪設計技術の整理・体系化</p> <p>3 年度：「雪と建築」改訂のための資料収集および対雪設計技術の取込み</p> <p>4 年度：「(仮称) 雪と建築 2」の改訂原稿執筆、発刊と講習会の開催</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	<p>主査：中島肇 (日本大学)</p> <p>幹事：千葉隆弘 (北海道科学大学)、佐川隆之 (清水建設)</p> <p>委員：三橋博三 (東北大学)、苫米地司 (北海道科学大学)、桜井修次 (北海学園大学)、高橋徹 (千葉大学)、富永禎秀 (新潟工科大学)、石川浩一郎 (福井大学)、喜々津仁密 (国土技術政策総合研究所)、堤拓哉 (北方建築総合研究所)、小板橋裕一 (日建設)、菊池浩利 (清水建設)、小竹達也 (大成建設)、大塚清敏 (大林組)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>降水量に基づく雪荷重の評価 WG：</p> <p>2014 年 2 月に発生した関東甲信の大雪被害に対して、降水量に基づいた雪荷重の評価方法について、より精度の高い評価方法を検討することを目的とする。</p>	
2017 年度予算	480,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/kouzou/s25/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	<p>2014 年 2 月の大雪と積雪後の降雨を踏まえた建築物の対雪設計に関するシンポジウム</p> <p style="text-align: center;">『同名資料』 参加者数 101 名</p>
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 前年度から企画したシンポジウムを実施し、雪荷重評価を含めた対雪設計資料を取りまとめ、広く情報発信する目標を達成した。</p> <p>2. また、WG と協働して建築物荷重指針・雪荷重部分の英文化を行った。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 委員会の性格上地方在住者が多いため、より多くの委員の方が出席できるような日程調整をさらに心掛けたい。</p>